

平成29年2月6日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《2月度農場便り》

「シーズン幕開け」

スポーツニュースではプロ野球のキャンプの様子が頻繁に報道されるようになりました。農場では冬の間準備していた稲苗の育苗土づくり、野菜苗の育苗に欠かせぬ踏込温床づくりの仕込みも終わりいよいよ種蒔きの時期を迎えております。先ず寒さに強いレタス類の播種から始めます。温度を必要とするキャベツ類、ピーマン、茄子、トマト類のナス科、続いて胡瓜、かぼちゃなど踏込温床の温度が下がり始める4月20日前後のお米の種籾の播種まで3か月間、味噌づくりと苗づくりに明け暮れるのです。ハウス内での育苗は温度管理を小まめに行わねばならず特に2月、3月は遠くへ出かけることは出来ません。「苗半作」丈夫で元気な苗を育てるには播種してから3～5枚の本葉が出るまで20℃前後の環境の中で育苗土の表面が乾いてきたら給水を行う、温度管理と給水管理を毎日小まめに観察しながら2時間おきぐらいに行うのです。人間の社会では「三つ子の魂百までも」と長期間にわたりますが植物の場合は1～2か月間ぐらいの本葉が揃い畑に定植するまでの短い育苗期間でその後の収穫までが決まってしまう。研修生の不在の今シーズンは人手不足となりますが初心に戻り小まめな観察と管理を行う予定です。工夫する点は同一品目を長く収穫するために3週間ほど間を置いて2回播種、育苗に挑戦してみます。今までは作業効率を優先し一回で済ませていました。これも簡単なようで品種、品目により育苗環境が異なるので限られた育苗環境で行うのは挑戦し甲斐があります。また去年は自家採取が思うように出来ず果菜類の種を新規に調達せねばなりません。種の世代を繋ぐことが振出しに戻ってしまい、新規に種を購入する経済的側面より世代が途切れることは極めて断念なことです。継続は尊く価値のあることと改めて痛感しました。米用の種籾については選別の基準を一段厳しく0.22の網目から0.24の網目で大きな粒を種籾にする工夫をします。また去年の催芽失敗を繰り返さないために新たに催芽器を導入する予定です。この道具も事前に何回か学習しないと自分のものになりません。まだ先のことですが稲作では一番の難題、田んぼの除草についても1月28、29日で参加した「田の草府フォーラム」での勉強会で得た情報を今までの除草技術に加えて改善する予定です。それにしても野菜作り、お米づくり農は奥が深いとため息が出るほどです。しかしこの先あれを試そう、これを試そうと思ひ描くとわくわくしてきます。今シーズンも宜しくお願い申し上げます。

・地区の中山間事業の芝焼き（2月5日）・稲苗用育苗土づくり（2月5日）



メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017